

ごんべえとうげ
権兵衛峠

木曾谷と伊那を結ぶ

権兵衛峠は経ヶ岳と駒ヶ岳連峰の鞍部に開かれた標高1,522mの峠。中仙道が通り宿場の多い木曾は、稲作に適さない地形のため米が不足していた。そこで木曾の牛方・古畑権兵衛が宿場側の意を受け、伊那谷より米の移入をスムーズにするため木曾谷と伊那谷との交通路として改修した。難工事の末、1696(元禄9)年に開通。財政難の高遠藩が借財のために領内の年貢米を木曾に送り出したという背景もあった。



権兵衛峠から伊那谷を望む
2006(平成18)年、車道として
権兵衛トンネルが開通し、木
曾と伊那間の交通の便は飛躍
的に良くなった



「雪災餓死等」碑(1803(享和3)年)と、
「御嶽山大権現」碑が峠頂上にある

information

- アクセス
伊那ICから20Km
車→40分
- 所在地
南箕輪村北沢、
塩尻市栃洞沢



木の間を渡る峠の風に乗り、当時の馬のいななきが聞こえてくるよう
峠には、奈良井川の水を用水として取り入れ、西箕輪村へ流した水榊の遺跡がある



牛方と
宿役人

旧名は
鍋掛峠

峠開通計画の推進者は、古畑権兵衛だけでなく、福島宿の葉種屋の扇屋や、年寄永井三右衛門、宮越宿の年寄斎藤治右衛門らを中心とした木曾11宿の宿役人であった。彼らは木曾で不足する米を、伊那から大量に搬入しようと考えた。これと木曾の牛方の駄賃稼ぎの要望とが一致して、新道の開削が計画されたと思われる。

権兵衛は自らも道路改修に参加し、2年をかけて24kmに渡る道路を完成させた。米だけではなく文化や信仰の交流も容易になったその功績は大きく、いつしか鍋掛峠から権兵衛峠と呼ばれるようになった。



(国土地理院の数値地図50000(地図画像)を使用)